

## 札幌市豊平川さけ科学館 存廃問題

# 存続に朗報

札幌の豊平川に起こった「カムバックサーモン運動」の拠点として1984年にオープンした札幌市豊平川さけ科学館が、施設改修期を前に、07年度の札幌市内部の行政評価の対象となり、その存廃が関係者の関心を集めていました。この施設は、数少ない「サケの水族館」であり、札幌市内外の市民に親しまれる一方、サケに関する貴重な発信拠点として、また、道内各地を視野にしたサケに関する貢献の実績が評価されていました。そのような中で、「09年度中に結論を」とする廃止も含めた行政評価の行方には多くの関心が集まりました。

当会としても、その業績を高く評価しており、更に同館が当会の会員でもあることから、'10総会で、存続を目指した検討を行い適切な応援活動を申し合わせておりました。その直後、同館の存続を願う市民団体等による存続の署名活動が始まり、間もなく「さけ科学館ファンクラブ」が発足の気配となったため、当会もこれに同調することにしておりました。

その後の経過は、幸いにも、市政評価の検討が進まず年度内結論は無理との情勢の中で、1月9日、ファンクラブ第一回の設立を兼ねた打合会が行われ、当会から木村事務局長が参加しました。会議では、まず正確な情勢を把握してから今後の体制、活動方針を整備すべきとの合意になり、とりあえず代表と事務局を選出し、1月21日に、市と接触し詳細な情勢を把握することにしておりました。予定通り行った市との接触の結果、「廃止の心配はなさそうだ（内容はオフレコ）」との情報が流れたところです。その最中、翌23日の道新朝刊に下記の記事が掲載されました。訪問前後のことで、まずは確認することになりますが、どうやら、これで一件落着きになりそうです。さらに、これを契機

に、同館のさらなる発展のために、積極的な市民からの提案をすべきとの声もあり、災い転じて一層発展の期待が持てそうです。

【1月22日北海道新聞朝刊記事の要点】

## 「さけ科学館」存続へ 円山動物園と連携検討

1984年にオープンした「さけ科学館」。入館者数は86年度の14万8千人をピークに、ここ数年は8万人台。築25年を経て2015年以降の改築期が迫り、07年に札幌市内部の行政評価で、「廃止を含め抜本的見直し」が指摘された。これを受けて市が08年に行った来館者250人のアンケート調査では9割が存続を望む意見であった。09年には指定管理者による専門家8人の委員会を設置し、利用促進のアイデアと検討存続の道を探っていた。

このような経過の中で、市は、新年度から円山動物園の関連施設としての位置づけを検討し、連携したイベントなどの企画で集客増を図る。施設の老朽化は一部補修で延命が可能で、3月末までには改修案をまとめる。将来は魚類中心の施設とし、動物園と双方で飼育する両棲類や虫類、昆虫をどちらに集約するか詰める。市観光局は「生物多様性を学ぶ環境教育の場としてさけ科学館は重要。動物園と連携し、より良い施設にしたい」と話している。

## ☆ 事務局便り

新年もまたたく間に過ぎ、もうすぐ2月です。皆様も東の間の新春気分も忘れ、相変わらずの激務に没頭のことかと拝察します。

事務局も、そろそろ浦野代表を中心に会報の編集作業を始める時期になります。「サケ」に関わる多様な情報を頂き、一層この会の目的に叶う充実した紙面にしたいと願っています。そのため、間もなく、作業日程を決め、皆さんに投稿のお願いをする予定にしていますので、その節はご協力をお願い致します。